

平和班フィールドワーク

～専門家及び立命館高校とのディスカッション～



7月26日(木)に長崎大学経済学部交流プラザで、平和班のフィールドワークを行いました。まず、法律関係を専門とされている経済学部の井田洋子教授が「平和について考える」というテーマで講義をしてくださいました。井田教授からは、戦争がない状態(消極的平和)だけでなく、貧困や差別などあらゆる構造的暴力の無い状態(積極的平和)までを「平和」という語が意味していることや、人間の歴史は戦争を違法化する歴史であることを学ぶことができました。平和という概念が思っていたよりも広いということは、生徒たちにとって新たな発見であったようです。また、講義では、今日世界的に問題となっているシリア難民や子ども兵士のような問題は、すべて戦争から派生する問題であることも指摘され、これらも「平和」について考える際のテーマに挙げられることがわかりました。さらに、井田教授は、平和を達成し維持していくには、中央政府だけでなく、地方政府や市民団体、さらには個人レベルに至るまで、様々な立場からの関わりが必要であると指摘されました。それを聞いて、生徒たちは、高校生がSGH活動などを通して平和について深く学習することは意義深いことであることに気づくことができました。

講義の後、小グループに分かれて、京都から研修で長崎に来ていたSGH校である立命館高校の生徒たち9名とマレーシアからの留学生2名を交えて、意見交換会を行いました。井田教授の講義を受けて、「戦争をなくすためにはどうすればよいか」や「人種や宗教による差別をなくすためにはどうすればよいか」など、消極的平和についてだけでなく、積極的平和を意識したディスカッションが各グループで繰り広げられていました。また、県外の人たちが平和についてどう考えているかを聞くことは、生徒たちには新たな刺激となったようで、「同じ国にいても、地域が異なれば平和に対する意識も違うことがわかったので、長崎からは長崎が経験したことを発信していくことが大事だと思った」という感想が聞かれました。

井田教授からの講義と留学生や立命館高校の生徒たちとの意見交換会を通して、「平和問題を自分のこととして考える」ことの大切さを深く理解したフィールドワークになりました。

井田教授からの講義と留学生や立命館高校の生徒たちとの意見交換会を通して、「平和問題を自分のこととして考える」ことの大切さを深く理解したフィールドワークになりました。

